災害 自らの命は自らで守る！自らの地域は皆で守る！

問危機管理課（☎983－2650）

地域の防災力を高めよう

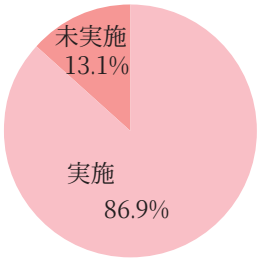
アンケート調査結果の公表（回答率：74.8%）

143全ての自主防災組織を対象に、現状を把握するため、アンケートを実施しました。小さなことから一つずつ積み上げ、地域の防災力を高めていきましょう。

防災訓練の実施

Q. 自主防災で全世帯を対象とした防災訓練を実施していますか？

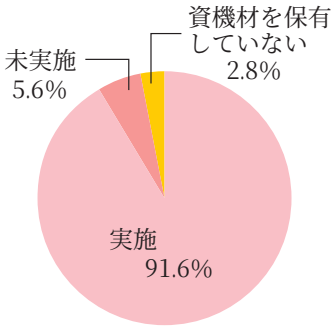
災害時に適切に行動するために、訓練が重要です。



防災資機材の点検

Q. 所有する防災資機材の点検（発電機の操作確認等）を実施（予定）していますか？

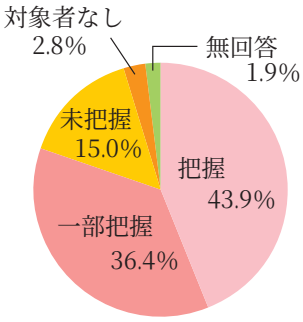
災害時に使用できるよう、点検が必要です。



避難行動要支援者の把握

Q. 避難行動要支援者（災害時に避難支援が必要な高齢者・障がい者など）宅を把握していますか？

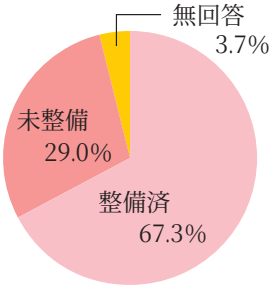
避難行動要支援者を助けられるよう、平常時に把握しておきましょう。



世帯台帳の整備

Q. 災害時に使用する町内の世帯台帳を整備していますか？

迅速な安否確認に役立つため、台帳を整備しましょう。



市総合防災訓練を見学しませんか

とき　8月31日㈰午前8時30分～11時30分
ところ　錦田小学校※駐車場はありません。

防災力アップ！人材育成講座の参加者募集

防災に関する基本的な知識と自主防災組織に必要な実践的な技術を身につけることができる講座です。

とき　①10月4日㈯②10月11日㈯③11月1日㈯④11月8日㈯⑤11月22日㈯（予備日）※①～③：午前9時～午後4時、④：午前9時～正午
ところ　市消防庁舎（南田町）
内容　市民トリアージ、家具の固定、ロープワーク、災害時のライフラインなど
対象　市内在住の中学生以上の人
定員　100人※応募者多数の場合、抽選
参加費　無料
申込み　8月29日㈮までに電話、FAX、電子メール、市ホームページ電子申請のいずれかで、氏名、性別、住所、電話番号、年齢を危機管理課（☎983－2650、FAX981－7720、電子メール kiki@city.mishima.shizuoka.jp）まで。

※詳しくは市ホームページ「地震・防災情報」をご覧ください。（http://www.city.mishima.shizuoka.jp/maincategory0902.html）

わたしたちの自主防災組織

梅名自主防災会委員長　高井　則彦さん

専任の防災委員を15人配置し、任期3年で毎年5人ずつが交代します。防災委員を中心に組織全体で活動し、発電機・可搬式ポンプ・チェーンソーのエンジン確認などを毎月実施し、年2回は4カ所に設置してある防災倉庫の中身を確認します。

防災訓練のほか、図上訓練を毎年実施するとともに昨年11月には、放水訓練にて可搬式ポンプ4台を作動させて実際に放水しました。放水したことにより放水方法や放水距離を体感できました。

有事に備え、日頃から点検・訓練を今後もしっかり実施していきたいと考えます。

歴史の小箱

No.315

日英で活躍した洋画家 栗原忠二

七月十九日（土）より開催の企画展「郷土資料館収蔵美術品展」で展示予定の作品の中から、今回は三島生まれの洋画家、栗原忠二をご紹介します。

栗原忠二は、大正から昭和初期にかけて活躍した洋画家です。明治十九年（一八八六）、久保町（現在の三島市中央町）の代々続く造り酒屋に生まれ、県立韮山中学校（現在の県立韮山高等学校）に進学します。中学時代には、澤田政廣や細井繁誠、和田金剛など多くの芸術家を指導した彦坂繁三郎のもとで水彩画を描き、東京美術学校（現在の東京芸術大学）西洋画科へ進学します。

学生時代からイギリスの風景画家ターナーに強い影響を受け、「栗原ターナー」とあだ名がつくほどだった彼は、美術学校卒業後、イギリスへ渡ります。イギリス画壇で認められ、外国人で初めて英国王立美術家協会の準会員となりました。ロンドンにアトリエを構えてヨーロッパ各地を旅しながら風景画を描き、大正十一年（一九二二）には東京の日本橋三越で個展が開かれるなど日英両国で名声を得ました。

長年英国を拠点に創作を続けた栗原ですが、大正十三年（一九二四）に帰国します。翌年、再び渡英するも一年で帰国し、東京にアトリエを構え創作活動を続けました。第一美術協会や築地洋画研究所を設立して後進の育成にも励むなか、昭和十一年（一九三六）に五十歳で亡くなっています。

今回展示予定の「月島の月（写真①）」は、栗原が東京美術学校在学中の明治四十二年（一九〇九）に白馬会展に出品したものです。新聞紙上などで好評を得て、彼の出世作となりました。この作品は彼の母校である現在の三島市立南小学校に贈られ、長年同校の宝として飾られていました（現在は郷土資料館蔵）。

▲写真①月島の月

もう一点は屏風で、洋画家の彼には珍しい日本画です。もともとは画帳であったものを屏風に仕立てたもので、小動物や山村の風景など身近な情景を描いています。

今回の収蔵美術品展を通じて、三島ゆかりの優れた芸術家や作品に親しんでいただければ幸いです。

▲写真②貼り交ぜ屏風

企画展は九月十五日（月・祝）まで開催され、栗原忠二の作品の他、楽寿園梅御殿の杉戸絵や玄峰老師・宋淵老師の掛軸、三四呂人形などを展示します。

ふるさとの人物ゆかりの地⑤ 箕田寿平

箕田寿平（孤山堂凌頂）は幕末から明治期の俳人です。天保十一年（一八四〇）、八反畑に生まれ、数えで十八歳になる時に江戸に出て、江戸俳壇の重鎮といわれた三島出身の孤山堂卓郎に付いて学び、俳諧の道に進みます。安政六年（一八五九）頃、三島に戻り、師が没すると一門のリーダーとなります。名は全国的に知れ渡り、横浜沖で海軍の観艦式を見たときの一句「見そなはす艦のかしこし浦の秋」は好評で、当時多くの人に親しまれました。

地元では八反畑の自宅に塾を開き、郷土の子弟の教育にあたります。一方、豆相鉄道（現在の伊豆箱根鉄道）設置に関与するなど郷土のために力を尽くします。渡米の意欲もあったといわれていますが、明治四十二年（一九〇九）十一月、病のため七十歳で亡くなりました。

▲箕田寿平が眠る周福寺（鶴喰）

問 郷土資料館（☎971－8228）

※広報みしま７月１日号31ページの「歴史の小箱」で、１段目７行の「（現東本町）」は、正しくは「（現本町）」でした。お詫びして訂正いたします。